

第5回 WHO 災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク代表者（コアグループ）会議・WHO 神戸センターフォーラムに登壇しました（2023/11/14）

テーマ：災害・健康危機管理に関する研究の普及と推進
会場：WHO 神戸センター、兵庫県立美術館（神戸・日本）

2023年11月14日に神戸市で開催された第5回災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク代表者（コアグループ）会議と、ひきつづいて開催された WHO 神戸センターフォーラムに、災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）が登壇しました。

WHO は仙台防災枠組の健康面を社会に実装するために、災害・健康危機管理枠組（Health EDRM Framework）を2019年に公開しました。WHO 神戸センター（WHO 健康開発総合研究センター）は WHO 本部に所属する世界で唯一の研究開発センターとして活動しています。WHO 神戸センターは1995年の阪神淡路大震災のあとに、神戸市の沿岸に兵庫県立災害医療センター、人と防災未来センターなどとともに設立され、神戸の復興のシンボルともいえる存在です。仙台防災枠組は、災害が健康に被害を与えるということを初めて明文化した防災枠組なので、WHO は災害が人々の健康に与える影響を低減することをめざしています。2019年は COVID-19 パンデミックが始まった年でもあります。WHO は地震や津波、台風、洪水などの自然ハザードとともに、感染症、放射線、紛争などの人為的ハザードも含めたオールハザードアプローチをとっています。2021年には『災害・健康危機管理の研究手法に関する WHO ガイダンス』が発行され、災害医療の研究者にとって大変有用なガイダンスとなりました。COVID-19 パンデミックに関する内容を加えて2022年には Ver.2 にアップデートされ、2023年9月1日には最初の英語以外の翻訳版として日本語版が発行されました（<https://apps.who.int/iris/handle/10665/363502>）。

江川教授は、日本語版ガイダンスの翻訳監修において、当研究所の研究者、国内の研究者・実務者のチームリーダーとして貢献しました。日本語版ができたことによって、災害医療の関係者だけではなく、異なる分野の防災研究者、実務者にも災害医療の考え方、研究の進め方などを知っていただくのに役立つガイダンスとなっています。これまですべての防災枠組が日本で合意されたように、わが国が多くの災害と向き合い、防災と災害対応の向上に寄与してきたことが、世界にも伝わる契機となっています。

文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター、災害医療国際協力学分野）

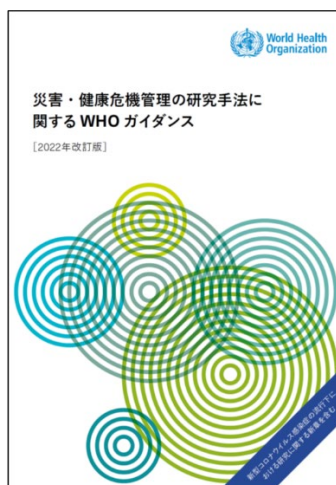
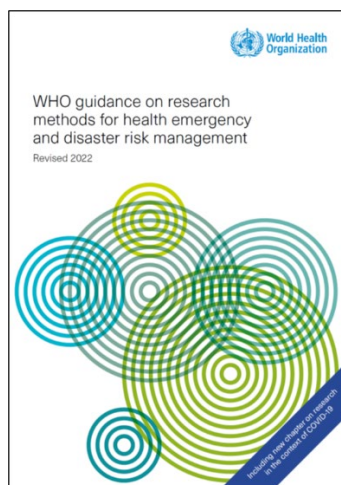
（次頁へつづく）



WHO 神戸センターでの第5回コアグループ会議



兵庫県立美術館での WHO 神戸センターフォーラム



『災害・健康危機管理の研究手法に関する WHO ガイダンス』